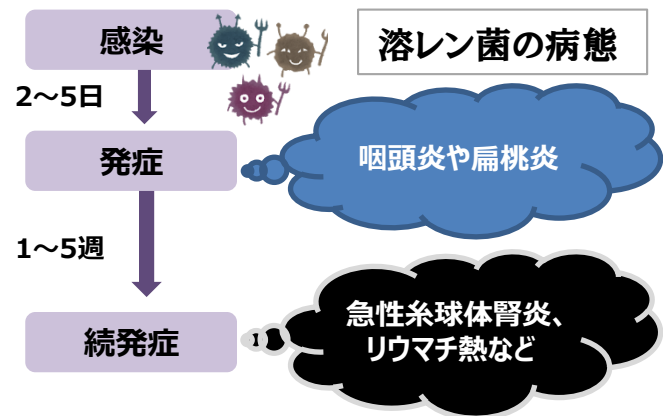
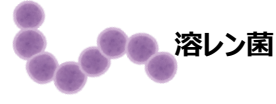


A群溶血性レンサ球菌感染症

A群溶血性レンサ球菌感染症と聞くとお子さんがかかる病気のイメージですよね。確かに、成人の咽頭炎の5～15%、小児では20～30%がこの細菌が原因の感染症といわれています。釧路管内の保健所によりますと、冬場に多いこの感染症が第20週目頃から少しずつ増加していました。子供がかかる病気といえ、大人がかからないとはいえません。そこで今回は流行期ではありませんがA群溶血性レンサ球菌感染症について取り上げます。

A群溶血性レンサ球菌感染症(溶レン菌)とは

A群溶血性レンサ球菌による感染症。上気道感染症や皮膚の感染症は急性、続発性感染症もある。
続発症は免疫学的機序による合併症で、1次発症後数週間後に発生する。
感染経路は主に**飛沫・接触感染**。



A群溶血性レンサ球菌感染症の症状

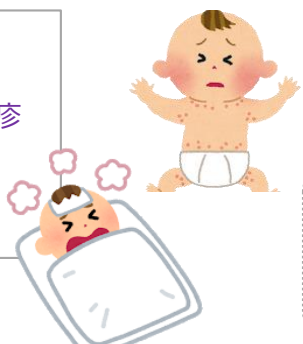
乳幼児では咽頭炎、年長児や成人では扁桃炎が代表的疾患。咽頭痛や頸部リンパ節の腫脹、イチゴ舌（イチゴのようなブツブツの舌）などが特徴的。

続発症

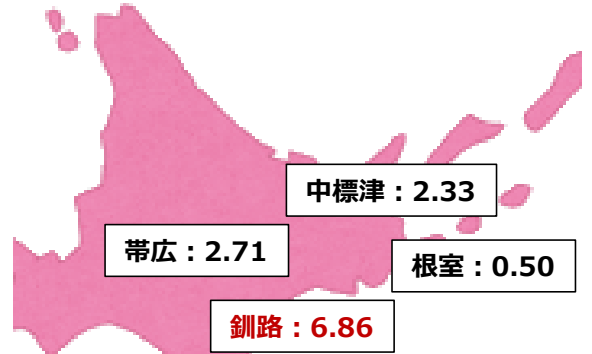
初めの発生後、しばらくして（1～5週後）発生する病気の中で代表的な病気が**リウマチ熱**と**急性糸球体腎炎**です。
リウマチ熱は初感染後10～25日で発症。発熱や関節痛、炎症反応上昇などが出現、多関節炎や心臓疾患などが出現します。
糸球体腎炎は初感染から1～3週後に発症。血尿、蛋白尿、むくみなどの症状が出現します。

猩紅熱

咽頭炎や扁桃炎に全身性の発疹を伴うものを猩紅熱といいます。幼児や児童に多く見られます。



釧路管内保健所のデータ(7/1/～7)の期間に小児科定点医療機関からの報告数)



釧路では過去5週でも6名前後の報告数がありました。冬に多いように思われますがそうともいえないようです。小児の病気というイメージですが大人も結構かかる病気です。飛沫・接触感染により伝播しますのでお子さんから感染してしまうこともあります。全国では2名程度の発生数ですが、釧路はそれより高い発生数で推移していますので注意が必要です。

どんな感染症も手洗い、手指消毒、マスクの着用など標準予防策を実施することで感染拡大を防ぐことができます。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



次回もお楽しみに！